

チェルノブイリから25年、未曾有の震災が日本を襲った……
その時、原子の火を弄んだ人類に鉄槌が下った!

チェルノブイリ事故から25年、
日本をまた死の灰が襲った。
国民の生存権をかけて、
原発ゼロをめざそう!

証言で綴る核問題

= 映画人九条の会7周年イベント =

★最新ドキュメンタリー映画

「バベルの塔」上映

監督 高垣博也(京都映画人九条の会会員)

と原発問題を考える集い

●日時 / 2011年11月24日(木)18:45~20:30

●場所 / 東京・文京シビックセンター5階・区民会議室AB

東京都文京区春日 1-16-21 電話 03-3812-7111

地下鉄丸の内線・南北線「後樂園駅」徒歩1分 / 都営三田線・大江戸線「春日駅」徒歩1分

●参加費 / 700円

●コメンテーター / 野村存生(原発問題住民運動全国連絡センター事務局次長)

あのチェルノブイリ事故から25年が経った今年、3月11日の東日本大震災とともに放射能の災厄がまたも日本を襲いました。あたかも「バベルの塔」の伝説のように。

京都映画人九条の会会員で、おもに東映京都撮影所で助監督として働いている高垣博也さんは、矢も楯もたまらずこのドキュメンタリー映画「バベルの塔」を制作しました。京都映画人九条の会が全面協力しています。

映画「バベルの塔」は、長年にわたって国の原子力政策を批判してきた工学博士の安斎育郎さん、原発問題で一躍注目を集めている京都大学原子炉実験所助教の小出裕章さん、元静岡大学教授で核融合炉などを研究してこられた深尾正之さんの5時間に及ぶロングインタビューを中心に、六ヶ所村の再処理工場や、被災地福島県の20キロ警戒区域まで入って現地取材した、約70分の最新ドキュメンタリー映画です。

またこの映画は、原子力発電の基本的問題を分かりやすく解説しており、今後のエネルギー問題を考える上でも大いに参考になる映画です。

映画人九条の会は、ちょうど満7周年にあたる11月24日、この映画「バベルの塔」を上映して原発問題を考える集いを企画しました。

コメンテーターとして原発問題住民運動全国連絡センターの野村存生事務局次長も参加されます。

映画人九条の会の皆さまだけでなく、原発問題に関心を持たれている多くの皆さまのご参加を、心からお待ちしています。

■主催 / 映画人九条の会

〒113-0033 東京都文京区本郷2-12-9 グランディールお茶の水 301号
電話 03-5689-3970 FAX 03-5689-9585 メール webmaster@kenpo-9.net